

神戸新聞

発行所

神戸新聞社

郵便番号 650-8571
神戸市中央区東川崎町
1-5-7

<http://www.kobe-np.co.jp/>

電話 (078) 362局

社会部	7040	映像写真部	7047
経済部	7094	販売局	7066
運動部	7095	営業局	7081
文化	7044	地域	7086
生活部	7045	活動局	

ご意見ご質問は読者サポートセンター

078・362・7056

(月～土 10:00～17:30)

のどの異物感

続く場合は受診を

健康 つしん



下村 庫三 医師

検査の際の苦痛がほとんどありません。

「のどが詰まったような感じ」「のどに何かがある感じがした感じ」は、ひっかかりかかった感じは、耳鼻咽喉科を受診される方の症状として比較的多いもののひとつです。

原因としては、鼻炎によつて鼻の奥から痰のようなものが流れてくる(「後鼻漏」)、扁桃腺の膿の塊(「膿栓」)、のどの炎症や腫瘍、甲状腺の異常、逆流性食道炎などがあります。

しかし、来院されて、のどの異常感を訴えられたら、

患者さんのうち大半は、一般的な診察や検査をしても、「訴えに見合うような病気」がすぐには見つかりません。こういったケースを、咽喉頭異常感症と呼んでいます。

この咽喉頭異常感症は近年増加傾向にあり、中高年の女性に多くみられます。原因ははっきりしません。原因ははっきりしません。原因ははっきりしません。

西洋では古来よりこの異常感のことを「ヒステリー球」と呼んでおり、古代ギリシャ時代にも記載があるといわれています。

治療は何よりも心配するより、鼻から細く柔らかいファイバースコープで観察するため、

しめることです。かなりされ症状の改善につながります。

訴えの強いケースには、診断と治療を兼ねて、軽い抗不安薬や漢方薬が処方され効果がみられることがあります。1週間以上、のどの異物感が続く場合は悪性疾患の早期発見のためにも受診をおすすめします。

(明石市医師会 下村庫三 医師「耳鼻咽喉科」)